

財団法人 国際親善協会

平成19年度事業

平成19年度の事業は、以下の2件である。

- 1)「第32回ジャパンウィーク 2007年ポーランド・ワルシャワ」主催

期 間：2007年10月26日～10月31日
開催地：ポーランド・ワルシャワ

- 2)「ザ・フレンドシップ・フォース」活動支援事業

期 間：通年
対 象：全国各フレンドシップフォースクラブ

第32回ジャパンウィーク2007年ポーランド・ワルシャワ
開催概要

1. 開催地 : ポーランド共和国ワルシャワ市
2. 開催期間 : 2007年10月26日(金)～31日(水)6日間
3. 開催規模 : 日本側参加者 1,200人
4. 現地側参加 : 見学者 32,000人
5. 主催 : 財団法人 国際親善協会
6. 開催国側
主催 : ワルシャワ市
7. 後援 : 在ポーランド日本国大使館、経済産業省、国土交通省、文部科学省、在日ポーランド大使館、ポーランド政府観光局、独立行政法人国際観光振興機構、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構(ジェトロ) 財団法人自治体国際化協会、財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会、ビジット・ジャパン・キャンペーン実施本部
8. 助成 : 独立行政法人国際交流基金、財団法人日商岩井国際交流財団
9. 協賛 : 日本航空、日本興亜損害保険株式会社、株式会社みずほコーポレート銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行、ポーランド日本商工会、ポーランド日本人会
10. 目的 : 「ジャパンウィーク」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、市民レベルの文化交流により、相互理解・友好親善を図る。
この「ジャパンウィーク」は、各会場での公演、展示、実演などによって構成されているが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴がある。

参加団体一覧

- 北海道 絵手紙教室いち語いち絵の会 / 絵手紙
- 栃木県 津軽三味線貢清世会 / 津軽三味線
- 埼玉県 Kawagoe Chorus League / 合唱、和紙ちぎり絵 初美会 / 和紙ちぎり絵
- 千葉県 千葉県年金受給者協会 和の会 / 玉すだれ
- 東京都 あうん / 魚拓、コレクターが賞を選ぶ絵画展 / 絵画、
墨のF1イラスト展 / イラスト
全日本婚礼美容家協会 / 婚礼美容，社団法人全日本ピアノ指導者協会 / ピアノ
大正琴絃容会 / 大正琴，財団法人日本武道館，
日本ポーランド友好協会合唱団「虹の会」 / 合唱・ピアノ，
社団法人日本和紙絵画芸術協会 / 和紙絵画
株式会社マンガネットワーク / マンガ，早稲田大学書道会 / 書道
早稲田ちんどん研究会 / ちんどん，
- 神奈川県 コールよこすか / 合唱
- 長野県 都山流尺八八幸会 / 尺八・琴
- 静岡県 伊豆新世紀創造祭記念合唱団 / 合唱
ジュニアオーケストラ浜松 OBOG 会 / 器楽演奏
歌枕直美・和歌劇「富智の山」 / 和歌劇
- 愛知県 太鼓衆 翔鼓 / 和太鼓
- 京都府 グループ” SUN ” / 琴，立命館大学多国籍音楽サークル出前ちんどん / ちんどん
- 大阪府 ピアニスト瀬田敦子（日本ポーランド協会関西センター） / ピアノ演奏
音楽の森へ行きましょう（日本ポーランド協会関西センター） / ピアノ・ピオラ
日本折紙協会大阪支部 / 折り紙
西日本友好親善訪問団 / 視察・交流
- 兵庫県 チーム鬼灯 / よさこい
- 奈良県 アウガルテン大正琴 / 大正琴，奈良社会福祉院佐保山太鼓隊 / 和太鼓
- 和歌山県 スタジオぼこ・あ・ぼこ / タップダンス
- 島根県 さだ須佐太鼓団 / 和太鼓
- 福岡県 ラブ・ムジカ / ピアノ，日本伝統工芸「能面」麻生能忍展 / 能面
日本伝統工芸「押絵」松岡玲子展 / 押絵，表千家同門会 / 茶道
皇風煎茶禮式 大野城光緑会 / 茶道
- 沖縄県 女声合唱団「星砂」 / 合唱

合計 40 団体

<全体の総評>

ワルシャワは幾度となく戦乱や火災により、破壊と再生を繰り返してきた。1944年ナチス・ドイツによってほとんど破壊されたが、市民の驚異的な努力により市街は傷の一つ一つに至るまで徹底的に復元された。

そのポーランドの首都ワルシャワ市において2007年10月26日から10月31日までの6日間にわたり「第32回ジャパンウィーク2007年ポーランド・ワルシャワ」が開催された。

さまざまな文化活動を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国より40団体・1,200人におよぶ方々が熱き思いを胸に、ワルシャワを訪れた。

また、ポーランド側からも各イベントに多岐にわたり10団体160人のご参加をいただいた。現地参加型の「双方向の交流」(日本側の参加者だけでなく、ポーランド側からも参加いただき「交流」する)を大きなテーマとして、両国民同士のきずなを深めることができた。

また、オープニングフェスティバル、野外イベント、舞台公演、展示・実演、武道演武会、交流プログラム、など6日間にわたり行われた各イベントプログラムにはワルシャワ市民はじめポーランド国民が観客として多数来場し、大盛況のうちに終了し、日本・ポーランド国交回復50周年にふさわしい記念事業となった。

< 事業の実施概要 >

1. ジャパンウィーク運営組織について

当事業は日本・ポーランド両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男 / 財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、ポーランド側はハンナ・グロンキヴィッチ・ワルツ ワルシャワ市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知 PR 活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・諸施設については各実施予定プログラムの主旨をワルシャワ市に配慮していただき、主なイベントをひとつの会場（文化科学宮殿）に集約して開催会場を準備して頂いた。

日本より都合 8 回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の交渉を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確実なものにして行った。

特に現地にてジャパンウィーク開催直前の 10 月 18 日にはポーランド側実行委員会による記者会見を設定していただき、日本側からも参加し、これを契機に一気にジャパンウィーク開催の機運を高めていただいた。

日本側では 2006 年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、ワルシャワ市、マゾフシェ県、在ポーランド日本国大使館そしてポーランド日本人会の皆様他、各関係機関にご協力いただいたおかげでほぼすべてのイベント会場が観客で満杯となった。下記が実施された広報・告知活動である。

(1) メディアでのプロモーション

独自のウェブサイトの立ち上げ

独自のウェブサイトをインターネット上で立ち上げ、ジャパンウィークの各イベントを PR および各会場への来場希望者のオンライン予約を実施（事前に基礎となる来場者数の把握を把握）

新聞

11 月 18 日の記者会見後よりジャパンウィーク終了までに 6 社計 15 回、ジャパンウィークについての掲載

ラジオ

20 秒スポットをラジオ局ヴァヴァにて、10 月 28 日まで 50 回オン・エア
TV

国営放送 TVP 2 および TVP 3 にて 10 月 25 日より 10 月 30 日まで 1 日につき 2 回程度のニュースでジャパンウィークを紹介

ショッピングモールでのスポット放送

中央駅、文化科学宮殿に隣接したショッピングモール「ズオティ・タラス」内で、10 月 23 日から 30 日まで計 80 回のスポットを放送。

(2) PRツール作成

ポスター(大)(100cm×70cm)500枚

ポスター(中)(60cm×42cm)3,000枚

チラシ(14,8cm×21cm)25,000枚 市内を走るトラムに配置

イベントプログラム(リーフレット) 30,000部

バナー(12m×2,5m) 1個 文化科学宮殿正面の壁に設置

広告版(2m×2m) 2個 文化科学宮殿正面入り口に設置

(3) 記者会見からジャパンウィーク期間中までの取材

TV局のTVP3より3回の取材があり、期間中にオンエアー

3. イベントプログラムについて

ジャパンウィークの大きなテーマは「双方向の交流」であるが、日本側のみの参加だけでなくオープニングフェスティバル、舞台公演、展示・実演についてポーランド側からの団体にも参加していただき、出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

また、今回はショパンの生誕地ワルシャワゆえにショパン国際ピアノコンクールの会場であるフィルハーモニアコンサートホールにて特別企画「音楽交流フェスティバル」を開催した。

トルヴァル中央センターでは30日(月)に武道演武会、交流稽古会、ワークショップを実施した。

交流プログラムの学校訪問については11団体が参加し、音楽交流プログラムは1団体、民俗舞踏交流プログラムは1団体参加し、各団体ともに肌と肌のふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。

毎年参加いただいている西日本親善訪問団は、ワルシャワ大学を友好訪問し、大いに親善交流の輪を広げて貰った。

4. 在ポーランド日本国大使館およびポーランド日本人会のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィークが大盛況に終えることができたのは一重に在ポーランド日本国大使館の田邊大使をはじめ大使館の皆様のご協力による賜物である。

また、ポーランド日本人会としてのご協賛、会の皆様によるジャパンウィークのプログラムへの参加、およびボランティアとしての参加、そして告知活動をしていただきご協力いただいた。

ポーランド日本人会傘下のワルシャワ日本人学校生徒の皆様にはジャパンウィーク初日のオープニングフェスティバルにご参加いただき、また、日本人留学生の皆様には29日の音楽交流フェスティバルにご参加いただいた。

ボランティアについては、ワルシャワ在住のポーランド人学生、日本人留学生、在留邦人など幅広い方々にご協力いただいた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィークの成功はありえなかったと言っても過言ではない。

< イベントプログラムの実施概要 >

オープニング・フェスティバル

日 時 : 10月26日(金) 15:00~17:00

場 所 : 文化科学宮殿前広場 特設ステージ

日本側 : 田邊隆一在ポーランド日本国大使館特命全権大使、野寄亮一ポーランド日本商工会副会長、金子隆一ポーランド日本人会会長、岡本睦治理事、大西誠理事、金井耿理事、古田親吾財団常務理事

ポーランド側 : ハンナ・グロンキヴィッチ・ワルツワルシャワ市長

カナジーナ・ラタイチックワルシャワ市プロモーション課長

参加者 : 早稲田ちんどん研究会、立命館大学多国籍音楽サークル出前ちんどん
奈良社会福祉院佐保山太鼓隊、チーム鬼灯

ワルシャワ日本人学校、プウォツク少年少女舞踊合唱団、Klick&Drum

観客数 : 2,000名

天 候 : 曇り

天気が心配だったが、曇り状態のまま大きな変化はなかった。

日本、ポーランド双方のスピーチの後、日本側の参加団体とともに「ポーランド日本人会のワルシャワ日本人学校」および「プウォツク少年少女舞踊合唱団」、「Klick&Drum」がポーランド側より参加いただき、太鼓演奏、よさこい 合唱および民俗舞踊にてジャパンウィークの初日最初のイベントをスタートした。

文化科学宮殿前の特設ステージ前は多数の観客で埋まり、イベントは好評を博し大変盛り上がった。

長い準備期間の後、ジャパンウィーク最初のイベントがスタートしたことを考えると感慨ひとしおであった。



オープニング・レセプション

日 時 : 10月26日(金) 17:30~19:00

場 所 : 文化科学宮殿内レセプション会場

日本側 : 田邊隆一在ポーランド日本国大使館特命全権大使、野寄亮一ポーランド日本商工会副会長、金子隆一ポーランド日本人会会長、岡本睦治理事、大西誠理事、金井耿理事、古田親吾財団常務理事

ポーランド側 : ハンナ・グロンキヴィッチ・ワルツワルシャワ市長

イエジィ・ポリアノフスキ ポーランド外務省開発協力局長

ラファウ・ジェシバ マゾフシェ県知事室副室長

クシトフ・ハウピンスキ マゾフシェ県文化・観光促進局副局長

ヴァワデマル・ロシキェヴィッチ マゾフシェ県副知事

日本側 : 22団体、ポーランド側 : 6団体

天 候 : 曇り

所 見 : 無事に「オープニング・フィエスタ」を終えることができたおかげで、和やかな雰囲気レセプションを始めることが出来た。

ほぼ時間通りに始まり、レセプションの華やいだ雰囲気と日本・ポーランド双方のスピーチが出席者の気持ちを高揚させてくれた。ワルシャワ市長からの参加証書授与の後、参加者は地元の「民俗舞踊団(プロムニ民俗舞踊団)」の踊りの心地よいリズムによって、用意いただいた飲み物や豪華なパーティー料理に舌鼓を打ち、レセプションを楽しんでいる様子を感じられた。

野外フェスティバル

日時：10月27日(土) 11:00~13:00
場所：文化科学宮殿前広場 特設ステージ
観客数：2,500名
天候：曇りのち晴れ

当日朝まで雨が残っていたがリハーサル時には天気も回復し安心した。

前日のオープニングフェスティバルよりもさらに多くの観客で埋まり、日本側からはちんどん、和太鼓、タップダンス、そしてよさこい、ポーランド側からはプラスバンドのパフォーマンス及び演奏を観客に披露し、イベントは大変盛り上がった。

後述のリボンカッティングにご臨席いただいた後、田邊大使をはじめとする実行委員会の皆様も広場にて2日目の野外イベントをお楽しみいただいた。



劇場公演

日時：10月26日(金)、27日(土)、29日(月)
場所：文化科学宮殿内ホール
観客数：1,500名

ウェブ上での事前の予約システムでの来場予定数が一定予定数を超え、また会場には予約をしていない来場者が公演ホール前に連日溢れて、文化科学宮殿内ホールは3日間大入り満員となった。また、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、このイベントの成功を劇場公演で確信した。

又、観客の反応は穏やかな国民性から想像できなかったスタンディングオベーション大喝采の拍手の中、幕を下ろした。



音楽フェスティバル

<合唱フェスティバル>

日時： 10月28日(日) 17:00~22:30

場所： フィルハーモニア大ホール

観客数： 1,000名(満席)

今回のジャパンウィークの目玉としての公演。満席の観客にめぐまれ、関係者一同、ほっとした次第。第1部は「ジュニアオーケストラ浜松OBOG会」のオープニング演奏、ベートーベンのエグモント序曲で開演。続いて、地元少年合唱団のすばらしいコーラス披露で、第1部「合唱フェスティバル」がスタート。日本からの5団体が、それぞれの持ち味を披露、最後の全員参加のフィナーレは、「故郷」を大合唱。観客全員のスタンディング・オベーションにはほんとうに感激した。

第2部は、「八幸会」の演奏でスタート。観客席から虚無僧が尺八を演奏しながらの登場、琴と尺八の演奏を堪能させる。

その後のピアニスト「瀬田敦子氏」の迫力あるピアノ演奏には観客のスタンディング・オベーションがあった。その後の日本ポーランド友好協会合唱団「虹の会」の同じくピアノ演奏に続き、最後は、「さだ須佐太鼓団」の高校生45名に



よる太鼓演奏。1曲の披露だったが、最後にふさわしい締めくくりで、またもや観客総立ちのスタンディング・オベーション。

5時間に及ぶ公演が、感動とともに終了することができた。

<ピアノフェスティバル>

日時： 10月29日(月) 19:00~22:50

場所： フィルハーモニア小ホール

観客数： 250名

前の日の合唱フェスティバル同様、開演前には入場を希望する市民の長い列がフィルハーモニア小ホールの前にできた。開演後、観客の皆様はじっと耳を傾けて各演奏者のパフォーマンスを堪能して楽しんでいただいている様子を感じられた。



リボンカッティングセレモニー

日 時 : 10月27日(土) 10:00~10:30

場 所 : 文化科学宮殿内展示会場

日本側 : 田邊隆一在ポーランド日本国大使館特命全権大使、金子隆一ポーランド日本人会会長、岡本睦治理事、大西誠理事、金井耿理事、古田親吾財常務理事

ポーランド側 : カナジーナ・ラタイチックワルシャワ市プロモーション課長
現地側出展者代表 「アートベム」

観 客 : 200名

当初予定していたポーランド側の代表者が急な政務で列席することができなくなり、その確認のためにセレモニーの開始が若干遅れたが、日本からの出展者、ワルシャワ市からの出展者及び来場者が見守る中、セレモニーは開始された。

日本・ワルシャワ両国の(実行委員会)式典ご臨席者紹介の後、岡本 睦治日本側理事が開場のご挨拶をされた。

双方向の交流を促進する目的で、現地側の展示も併設され、日本からの参加団

体と現地からの参加団体が紹介された。最後に、両国の(実行委員会)代表者4名によるリボンカッティングにより式典は滞りなく行われた。その後、日本・ワルシャワ両国の実行委員会による展示ブースの巡回が行われ、出展参加者に声を掛けられると共に、出展物一つ一つを丹念に見学されていた。



展示・実演

日時：10月27日(土)～30日(日)

場所：文化科学宮殿 4階 展示会場

入場者(延べ人数)：

10月27日(土)	2,500名
10月28日(日)	2,500名
10月29日(月)	3,000名
10月30日(火)	2,500名
合計	10,500名

双方向の交流を促進する目的で、昨年同様に、陶芸作品紹介(Art Bem)、「ポーランド折紙紙協会」の現地側展示も併設された。また、現地で活動されている、日本貿易振興機構(ジェトロ)や日本料理店にも出展していただいた。

ワルシャワの方々には、日本からの出展に大変興味をもたれ、作品ひとつひとつをじっくり鑑賞したり、書道、彫刻、折紙、工芸などの実演を熱心見入っていたり、参加したりしていただき、展示会場は連日大変盛況であった。

週明けには、学校単位で小中学校の生徒達にも大勢来場していただき、折紙、書道等の実演に追われる場面もあった。急遽応援に駆けつけてくれた早稲田ちんどん研究会のパフォーマンスに子供たちは大喜びだった。

来場された方々の中には、作品を観るだけではなく、携帯電話を作品にかざして、じっくり写真を撮って(写メール)いたのが印象に残り、時代の移り変わりを感じた。



武道演武会

日 時 : 10月30日(火) 17:00~19:45
場 所 : トルヴァル中央スポーツセンター
日本側 : 松永光団長、田邊隆一在ポーランド日本国大使館特命全権大使、金子隆一
ポーランド日本人会会長、古田親吾財団常務理事
ポーランド側 : ヴォジミエシュ・パシンスキ副市長
イエジィ・ポリアノフスキ ポーランド外務省開発協力局長
ゼノン・ダギエルスポーツ課副課長
ラファウ・ジェシバ マゾフシェ県知事室副室長
参加団体 : 派遣日本武道代表团 73名
観客数 : 3,500名

所 見 : 今回の特別企画、地元武道家を対象にした「合同稽古会」が、午前におこなわれた。

300名を超える地元武道家が、ポーランド全国規模で集まり、日本からの先生の指導を熱心に学び取ろうとし、内容の充実したすばらしい稽古会だった。

メインの「演武会」は、ほぼ満員の観客入場者に恵まれ、良い雰囲気の中演武会がスタート。盛大な拍手の中、11武道団の入場、両国歌斉唱につづきセレモニーが行われた。今回、地元ワルシャワ大学と他2大学に、日本武道館から武道に関する書籍の贈呈が行われ、それぞれから感謝のこたばを送られた。

演武会は、テンポよく進行することが出来、途中帰る観客も少なく、良い形で終わることが出来た。大観客の声援に応じて、武道の神髄を手際よく披露することが出来た。引き続き、観客を対象とした「ワークショップ」も、短い時間だったが、参加者もおおいに楽しんでいただいていた様子を感じられた。



学校訪問

日 時 : 10月25日(木) ~ 10月30日(火) 各午前中

11の参加団体が、8の学校に訪問し交流イベントを行った。

パフォーマンス・グループの訪問交流では訪問先の学校の生徒たちが体を揺らし、リズムを感じながら、パフォーマンスを楽しみ、その後のワークショップでも、太鼓のたたき方を習うなどして交流した。

展示・実演グループの訪問交流では終始なごやかな雰囲気の中で訪問グループの実演を見学し、その後のワークショップも体験し、参加者による日本語のサインをもらうなどして交流を楽しんでいただいた。

音楽交流プログラム

下記2グループが参加した。

【都山流尺八幸会】

日時： 10月27日(土) 12:30~14:30
交流相手先： ショパン音楽アカデミーの学生
(フルート、ピアノ、ハーブ奏者各1名づつ)
交流場所： ショパン音楽アカデミー シマノスキー講堂

まず日本側八幸会より琴、詩吟、尺八および琴と尺八による三重奏のパフォーマンスの披露をした。そしてショパン音楽アカデミーの学生よりフルート、ピアノ、ハーブによる演奏の披露があった。その後、日本より楽譜を事前に渡していた曲「みずうみの詩」を合同演奏した。事前にまるで何回もリハーサルをしたような息のあった合同演奏であった。ハーブとお琴、フルートと尺八の音がとてもよく合っていた。最後にハーブとお琴のお互い、奏者同士のワークショップ時間も楽しんでいただいた。



【スタジオぼこ・あ・ぼこ】

日時： 10月28日(日) 13:00~15:10
交流相手先： プロムニ民俗舞踊団
交流場所： ショパン音楽アカデミー 体育館
最初はお互いに遠慮しあうようであったが、お互いに踊りを披露しあううちに和やかな雰囲気になってきた。スタジオぼこ・あ・ぼこはタップダンスを、プロムニ民俗舞踊団はポーランドの伝統的な踊り「ポロネーズ」や「クヤウィアック」を紹介し、民謡も唄った。残った時間で日本側とポーランド側がペアを作り、互いの踊りを楽しく踊った。

野外宣伝(パフォーマンス)

日時： 10月25日(木)~30日(火) の間の午前もしくは午後
場所： 市内各所

早稲田ちんどん研究会および立命館大学多国籍音楽サークル出前ちんどんのパフォーマンスはにぎやかな音楽と鮮やかな衣装にみるみるうちに人垣ができた。同時にパフォーマンスが可能な時間があり、その場で即興合同演奏してワルシャワ市民にジャパンウィークと彼らの存在をアピールした。

また、千葉県年金受給協会 和の会も、彼らが「南京玉すだれ」をパフォーマンスし始めると、通りすがりの市民の注目を浴びた。



西日本友好親善訪問団 交流プログラム

【ワルシャワ大学日本学科訪問交流】

日 時： 10月27日(土)、29日(月)、31日(水)

場 所： ワルシャワ大学キャンパス及び新図書館

西日本各地から有志が参加している西日本友好親善訪問団は、11月27日と29日そして31日の3回、ワルシャワ大学を訪問し、東洋学研究所日本学科の教授、講師及び学生と親善交流を行った。ワルシャワ大学は1816年に創立された国立の文化系の総合大学で、現在18の学部約5,800人の学生が在籍、1919年に設立された日本学科(現在の正式名称は日本・韓国学科)は、東欧で最も古い日本文化研究、日本語教育機関として、現在は常時約200名の学生が学んでいる。2002年には天皇・皇后両陛下が訪問された。

今回は初めに学生達の案内でワルシャワ大学のキャンパスを見学し、その後は斬新な建築の新図書館へ移動、講義室で学生その他、教授、講師陣にも参加をいただき交流会を行った。日本学科の岡崎教授によるワルシャワ大学の概要、歴史の案内にはじまった交流会は、続いて学生代表のスピーチにうつり、4名の代表者が何故日本に興味を持ったのか、また将来的にどう日本とかわっていきたいのかという点を切り口にスピーチを展開、訪問者一同興味深く聞き入った。最高学府であるワルシャワ大学の学生のスピーチは非常に教養度の高い内容で、参加者一同は、日本人の中に薄れつつある日本文化の側面を彼らの中に見出し、驚きを隠せなかった。スピーチの後は質問タイムとなり、アニメや漫画といったサブカルチャーなどの話題も出て、あっという間の1時間半が過ぎ去った。最後は参加各団体の代表が学生におみやげを、また訪問団として大学側に日本古典名作選のビデオとVTRを手渡し、交流会は終了した。しかし今回は初の試みとして引き続きランチパーティーを実施。講義室に隣接するコリダーで教授、講師、学生とざっくばらんな意見交換をしながらのビュッフェランチを楽しんだ。

【ワルシャワナイト】

日 時： 10月27日(土)、29日(月)、31日(水)

場 所： 農業中央図書館ホール

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するため、かつてキューリー夫人が学んだとされる農業中央図書館のホールで夕食会「ワルシャワナイト」を開催。夕食会は主催者の挨拶に始まり、続いて乾杯のご挨拶とご発声を各回参加者代表が行った。参加者の皆様にはポーランドの郷土料理をお楽しみいただく一方、食事の間にはショパンミニコンサートとして「ワルツマイナー」と「幻想ポロネーズ」のピアノ演奏とフレデリック・ショパン音楽学校の少年少女による合唱も披露され、特にポーランド民謡「森へ行きましょう」と最後の「ふるさと」の合唱は、異郷の地で聞く日本語の歌声が聴衆一同に大きな感動を与えた。

そして夕食会は盛況のうちに、来年の開催地フランス、ストラスブールの案内ともにおひらきとなった。

<ま と め>

3 2 回目のこの事業をさらにより向上させるべく下記を取り組んだ。

1. 現地参加型の「双方向の交流」をテーマとした。

各プログラムについては現地側からも 10 団体、160 人のご参加をいただいた。日本側からの一方的な日本文化の紹介だけにとどまらず日本からの参加者の皆様もポーランド文化を体験しながら日本側とポーランド側、双方の交流が実現できた。

2. イベントにおいてショパン生誕の地である、開催都市ワルシャワの特色を前面に出した。

音楽家の憧れの舞台であるフィルハーモニアコンサートホールを会場とした、ワルシャワならではの「音楽フェスティバル」を開催した。合唱フェスティバル、ピアノフェスティバルを2日間行い、大変盛り上がった。

3. 会場の観客動員をイベントにおける最重要項目ととらえた。

現地と協議の上、ジャパンウィーク独自のウェブサイト立上げを含めた各種の効果的なPRを実施したことにより、ほぼすべてのイベント会場において観客は満員となり、その結果日本側およびポーランド側双方のイベント参加者の皆様には大変ご満足いただいた。

4. 現地側のワルシャワ市の各部署と個別に綿密な打ち合わせを行った。

ワルシャワ市の教育局・スポーツ局などの各部署の実務担当者にジャパンウィークを理解いただいた上で、ダイレクトに細かな打ち合わせを行った。その結果、日本ポーランド双方にとって満足度の高い交流プログラムが実現できた。

以上により、各プログラム内容を充実させることができた。

今後もさらにジャパンウィークの内容の「進化」を図り、国際親善に貢献してゆきたい。



3) ザ・フレンドシップ・フォース活動支援事業 2007年度事業

1. 事業名 : フレンドシップ・フォース(略称: FF)活動支援事業
2. 事業内容:
 - a. 日本のクラブと本部(アトランタ)との連絡事務補助・翻訳
 - b. 日本のクラブの相互交流支援
 - c. 新クラブの設立支援
 - d. 宣伝等包括的対外活動
3. クラブ総数(日本国内): 24クラブ
会員数 約1,500人
4. 日本のクラブの交換(2007年):
 - a. 受入交換 17(405人来日)

参加国・・・オーストラリア、アメリカ、イギリス、ニュージーランド、ブラジル、ベルギー、ニューカレドニア、カナダ、インドネシア、ドイツ、台湾、ベトナム
 - b. 渡航交換 24(359人渡航)

訪問国・・・アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、ニュージーランド、ベルギー、ドイツ、コスタリカ、ニューカレドニア、ハンガリー、カナダ、韓国、トルコ
5. 大会
 - 1) 日本大会
日時: 2007年10月20日~21日
於 : 山口クラブ、宇部市
 - 2) アジア・パシフィック・フェスティバル(第2回)
日時: 2007年4月4日~8日
於 : 日本、愛知クラブ、名古屋市
 - 3) 世界大会(30周年)
日時: 2007年3月1日~4日
於 : アメリカ、ジョージア州、アトランタ

受入クラブ名	交換No.	日程	担当クラブ	人数	ED	FFIの担当
Leicestershire, UK	8305	3/29-4/05	大阪 愛媛	17	森本 よしこ 中村 まゆみ	Kathy Thomas
Central Coast, Australia	8304	3/28-4/04	鳥取 高雄・台湾	16	小沢のぼる	Emma Copeman
Kern County/San Diego, USA	8455	3/28-4/04	埼玉	23	小島ひでこ	Debbie Powell
Curitiba Metropolitan, Brazil	8361	4月	福岡 京都福知山	9	音成 玲子	Ana Smulski
Asian - Pasific Festival	8584	4/04-08	愛知	113		Debbie
Perth, Australia	8348	3/23-30	札幌 大分	25	半田じゅう一郎 しが きくみ	Emma
Sunshine Coast, Australia	8351	3/23- -4/15	宮城 山口	13	長栄さん 村野 しろう	Emma
Maas/Kempen, Belgium	8357	5/09-	静岡 奈良	20		Mary Mwambay
Calgary, Canada	8366	5/23-30 5/16-23	愛知 郡山	22	加藤 紀子 野内 たかお	Mary
Malang, Indonesia	8369	4/08-14	Taipei 東京	18	日山 てる子	Maryam
Pikes Peak Region, USA	8555	10/08-14 10/02-08	大阪 山形	9	米井 てる子 大石 忠義	Maryam
Florida Suncoast and all Florida	8338	10/04-	愛媛 新潟	22	久保 えいこ	Maryam
Murray Bridge, Australia	8421	9/30-10/06 10/06-13	西東京 熊本	19	石井 嗣代	Emma
Herne, Germany	8347	9/21-	長崎 大分	25	しが きくみ	Kamila Gluch
Cedar Rapids, USA	8352	10/23-	東京 岐阜	18	宮本 はるこ	Maryam
San Diego & Honolulu, USA	8354	10/03-	太田群馬 三重	21	水谷 みよ	Maryam
San Antonio, USA	8448	10/25-	福岡 埼玉	15	角 のぶ子	Maryam
合計・交換数				405		

担当クラブ	交換No.	日程	訪問クラブ名	人数	ED
山形	8296	3/27-4/04	Tamworth, Australia	8	矢野 時男
東京	8312	11月	Billings, Oklahoma, USA	22	大貫 忍
三重	8319	2/15-	West Alajuela, Costa Rica	11	
西東京	8320	3/03-09	Raleigh, USA	10	山本 文
熊本	8443	4/06-	Limberg, Belgium		與繩 英二
東京	8445	4/18-25	Noumea, New Cadonia	12	淡海 雅子
長崎	8459	5/21-	Devon, UK	13	板倉 英世
愛媛	8468	6/11-	Szokesfehevar, Budapest, Hungary	14	佐藤 学
埼玉	8523	6/11-	Fraser Valley, Canada	20	沼 純子
太田群馬	8525	6/7-	Kiel, Germany	14	中富 嶺
大阪	8471	7/30-	New Plymouth, Taupo, New Zealand	10	森本 吉彦
京都福知山	8620	8月	Cardiff, UK	-	キャンセル
福岡	8485	7月	Greater Des Moines, USA	-	キャンセル
札幌	8499	9/10-	Rheinhessen, Germany	16	長尾 新
山口	8501	11gatu	Marlborough, New Zealand	14	山本 かずと
岐阜	8960	9/03-14	Medicine Coast, Canada	17	岩田 恭子
鳥取	8397	9/07-	Causeway Coast, UK	22	戸野 康恵
大分	8335	9/04-	Brussels-Pajot, Belgium Merseburg, Germany	10	平野 孝光
愛知	8367	9/21-	Greater Harrisburg, Central North Carolina, USA	15	土居 陽子
郡山	8390	8/18-26	Jundiai, Brazil	18	嶋 勇吉
宮城	8393	9/05-	Braunschweig-Peine, Germany	17	たつた あきこ
埼玉	8395	10月	Seoul, Korea	25	佐藤 ゆきえ
静岡	8388	10月	Montreal, Canada	20	
福岡	8391	10月	Karsiyaka, Turkey	20	むねひろ ひでとし
奈良	8394	9/24-	Charlotte & Raleigh, USA	22	
東京	8617	11/11-	Hobart, Sunshine Coast, Australia	25	余村 得子
合計				359	